

第1回検討会の主な御意見と参考となる事例

主な御意見

参考事例

1 長期的なサービス**事業量の確保**が必要。民間の事業者では、農業支援サービスの**閑散期**に、餅の製造や除雪作業などの**他の業務請け負っている例**もある。



株式会社 千手

2 再編整備後、これまでなかった**規格を新たに増やす**ことにより、**受け入れの幅を広げ**、売り上げ増加につなげた例もある。



JAフルーツ山梨

3 効率的な運搬については、荷受拠点の整備だけでなく、**運送会社なども含めて**、効率化のためには何が必要かを**全体を俯瞰して検討**する必要。



JA島原雲仙

4 選果場において、当日の入荷量に応じた必要人員の確保に課題がある。当日の**入荷量**がわかるような**仕組み、アプリ**などがあればよい。



JA島原雲仙

1 農業支援サービスの閑散期に、他の業務を行っている民間事業者の例 【株式会社千手（新潟県）】

専門作業受注型

水稻及びそばの主要作業の請負

水田作

畑作

①概要 株式会社千手

- 事業体の特長
自作地生産に加え、水稻・そばの請負を実施
- 従業員数、所有機械数等
役員4人、常雇用24人、臨時雇用31人
トラクター14台、田植機7台、コンバイン10台、
無人ヘリ2台、大豆そばコンバイン3台 他
- サービス展開地域 等
新潟県十日町市千手地区、小千谷市、柏崎市
(小千谷市、柏崎市は苗販売のみ)

②サービス内容・期待される効果等

- 水稻の耕起・育苗～収穫・乾燥調製の主要作業の請負(畔の草刈り、追肥作業は除く)
・作業料金(育苗・苗販売/耕耘/代掻き/田植え/溝切り/防除/収穫/乾燥調製/堆肥散布/秋耕耘): 89,000円/10a (R4実績)
(注)上記の一部作業の請負でも可
肥料・農薬代金等は別料金
- そばの耕起・播種～収穫・乾燥調製作業の請負
・作業料金(全作業): 30,866円/10a

③支援実績等

- 令和4年度の請負面積
水稻 117ha、そば 8ha
(他、自作地 146ha)



④課題・今後の展開等

- 課題
・従業員は農業未経験者が3分の2を占め、計画的な育成が必要
- 今後の展開
・高齢化と後継者不足が加速しており、作業受託、農地利用権設定依頼も増加
・繁忙期は4～6月、9～11月。
10月は稲収穫後のそば作。
11～12月は餅の製造・販売。1～3月は除雪作業等への人材派遣や、機械・施設のメンテナンスを実施。野菜の栽培にも取り組み、年間を通じた就業を実施。

⑤連絡先等(事業者)

会社名 株式会社千手
電話番号 025-768-3683(平日 9:00 ~ 17:00)
HP <https://www.senjyurs.com/>

課題・目的

- ・ 共選基準を満たさない桃については、各農家が個別に荷詰めを行い出荷するため、**農家にとって、一連の作業に負担感。**
 - ・ 一方、市場やバイヤー側は、桃の市場流通量が減少し、**完璧な品質でなくても手頃な値段で購入できる桃を必要とするニーズが存在。**
- ⇒JAと部会役員で新たな共選基準をつくり、
低位で安価な新ブランドを立ち上げ。

取組の内容

✓ 新ブランド「^{かんすけ}甘助」の立ち上げ

- ・ 糖度は8度以上（共選出荷基準の糖度：約12～13度）
- ・ 品種は問わない

⇒通常より低位な規格設定

✓ 個選から共選へのシフト

- ・ 各個人で出荷作業を行っていたが、統一規格の登場により選果場での共選にシフト。

⇒農家負担の軽減、手取りの向上

⇒選果場の稼働率の向上



	令和4年度	令和5年度
甘助と個人出荷の場合との販売単価の比較（%）	132	129
甘助の販売高（百万円）	88	108
甘助の出荷量（トン）	193	239

4つの集出荷場の統合により**横持ちコストが増大**

⇒ 空き容量を活かし、重量野菜と少量多品目を**合積み**に

⇒ 方面が同じ**運送会社間で協力**し、積載率を向上

- 馬鈴薯、だいこん、にんじんなど**重量野菜**については、個別の集荷場が多数あり、**どの集荷場も基本的に1品目トラック1台分以上になるように設定**。
- 当該トラックの**空き容量で他の少量多品目を合積み**。合積みができない場合には、小口専用の運送に依頼。
- 運賃については、貸切りと小口があるが、1市場・1台単位を目標に貸切運賃での対応を目指している。
- 積載率については9割を超え**ており、**運送業界で合積み**し運賃を抑制。
- フェリーの活用（北九州から）は増加傾向。鉄道の活用は馬鈴薯やブロッコリーで可能性あり（佐賀の鍋島駅又は熊本駅の場合トラックで2往復可能）。
- ドライバーの荷待ちをなくすため、集荷施設（選果のないものに限る）の作業終了時刻を10時に設定・厳守。
- 馬鈴薯、にんじん、だいこん、ブロッコリーでパレット化が進んでおり、一部で選果場の職員とドライバーが協力して載せ替えをしているが、パレタイザーの導入も進展。パレタイザーの作業効率向上の観点から、等階級の簡素化も課題。



【JA島原雲仙】導入事例

～「生産コスト削減」と「生産者所得向上」を出荷予測で同時に実現～

導入前の課題・導入の目的

- 出荷時期の人手不足、
エクセルでの出荷予測作成による**職員の負担集中が課題**。
- 雇用の平準化、職員の負荷低減、
精度の高い出荷予測の実現を目指す



導入後の効果

<JA職員の声>

- 出荷予測システム導入前は1～2か月先の収穫量が把握できず、雇用を減らすことができなかったが、出荷予測ができるようになり、**選果場や生産者含めた雇用の計画化が可能に**
- 販売についても、出荷予測システムの予測を市場に提供することで、売り込みのタイミングがわかりやすくなり、**農業者の所得向上への寄与と生産コストの削減と生産者の所得向上にも寄与**した

<生産者の声>

- 以前も圃場を回っていたが、適期を逃すことが多かったが、
出荷予測を確認することでいつ圃場に入ればよいか分かるので、大分作業が減り、**収穫の適期を逃さなくなった**



図1. 雲仙市の位置



図2. 吾妻町の位置

◀ 産地（雲仙ブロッコリー部会）

令和元年度第58回農林水産祭
園芸部門で最高賞の「天皇杯」受賞！！